[Company Logo Placeholder]

AIによる面談フィードバック自動化プロジェクト

データドリブンな人材育成基盤の構築による、キャリアアドバイザーの面談品質向上施策

NotebookLM

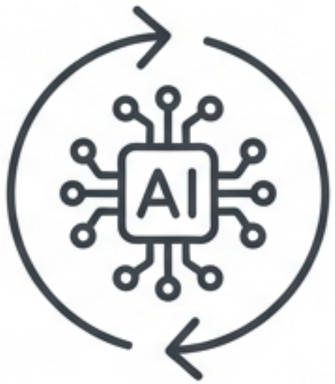
本プロジェクトの概要：課題・解決策・成果

オンライン面談のブラックボックス化という課題に対し、AIフィードバックの完全自動化により、利用率100%と育成文化の変革を実現しました。



課題（Problem）

面談品質の低下リスク、育成機会の喪失



解決策（Solution）

Google Workspace と AI を活用したフィードバックの完全自動化



成果（Result）

利用率100%達成、CAの自己成長とマネージャーの的確な指導を実現

NotebookLM

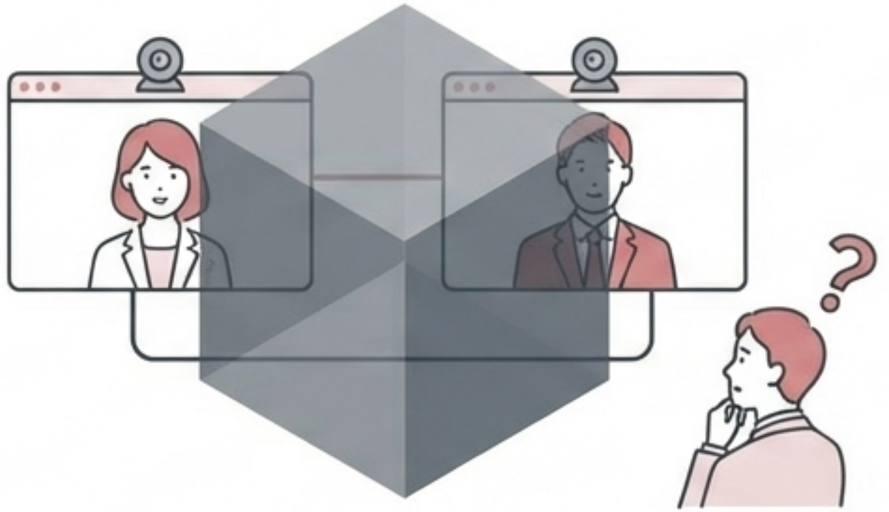
事業の根幹を揺るがす「面談ブラックボックス」問題

オンライン面談への移行により、事業成長の生命線である面談の中身が見えなくなり、品質担保と人材育成が困難になりました。



従来（対面）

上長同席によるリアルタイムでの直接指導モデル。



現在（オンライン）

上長の同席が困難になり、面談内容が完全に不可視化。フィードバック機会が激減。

NotebookLM

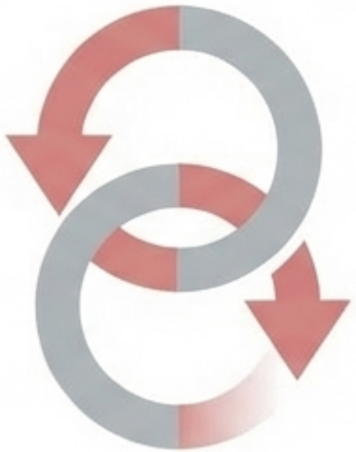
失われた「成長の機会」：当事者と管理者の双方に生まれた悪循環

CAは客観的な振り返りができず、マネージャーは的確な指導ができない。この悪循環が、個J人の成長と組織の育成力を停滞させていました。



キャリアアドバイザー（CA）の悩み

- 客観的な振り返り機会の欠如
- 成長実感の得にくさ（「何となくうまくいった」で終わる）
- 自己流スタイルの定着リスク（特に新人）





マネージャーの悩み

- 担当メンバーの面談内容を把握できない
- 「最近どう？」といった漠然とした指導導しかできない
- チーム全体の課題を把握できない

NotebookLM

Google Workspaceを基盤とした、AIフィードバックの完全自動化ループ

面談設定からフィードバック通知まで、人の手を一切介さないシームレスな仕組みを構築。面談終了後、約5分でフィードバックが届きます。



CAが面談予定を登録

サービスアカウントが自動で会議に参加し、議事メモ機能で文字起こし

Workspace Flows & Custom Gem: 面談終了を面談終了をトリガーに、AIが文字起こしデータを分析し、フィードバックを自動生成

生成されたフィードバックをCAへ自動で通知

NotebookLM

フィードバックの質を担保する、事業成果に直結する戦略的な評価観点

感想ではなく、事業リスクを回避し成約に繋げるための具体的な観点でAIをチューニング。
これは経営・マネジメント層との議論の末に生まれました。

評価の基軸：「求職者が当社経由で成約するにあたってリスクとなり得る観点」



本音の深掘り

求職者の本当の転職理由や希望条件を引き出せているか？



競合状況の把握

他社エージェントの利用状況や提案内容を確認できているか？



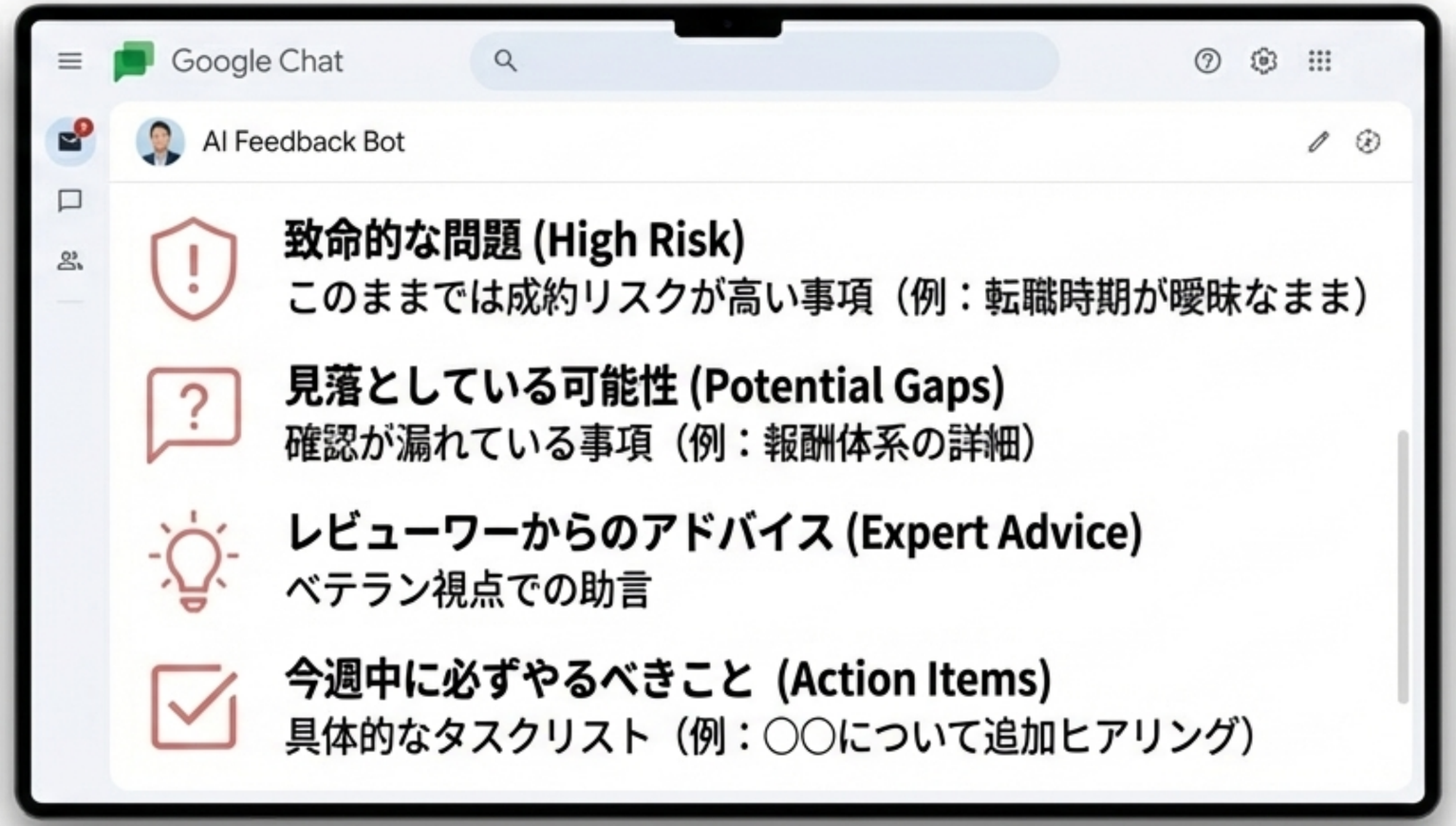
価値提供

求職者自身が気づいていないキャリアの選択肢を提示できているか？

NotebookLM

見て終わりではない、次への行動を促す構造化されたフィードバック

致命的な問題から具体的なToDoまでを構造化して提示することで、CAがすぐに行動に移せるように設計しました。



NotebookLM

成功の核心：利用率100%を実現した「使わない選択肢をなくす」設計思想

多くのAIツール導入が失敗する「使われなくなる問題」を、徹底したユーザー負担の排除と業務プロセスへの完全な統合によって解決しました。



1. 自動参加による選択肢の排除

CAの追加作業はゼロ。何もしなくてもフィードバックが届く。
「使う・使わない」をユーザーに委ねない。

利用率 100%



2. 日常業務環境への統合

新しいツールは不要。いつも使うGoogle Chatに
通知が届く。業務の流れに溶け込ませる。



3. 徹底したハードルの低減

学習コスト、ログイン、設定、ファイルアップ
ロードなど、あらゆる手間を一切不要に。

NotebookLM

CAの成長を加速させる、客観的データに基づいた振り返りの習慣化

曖昧な感覚だよりだった振り返りが、具体的・客観的なフィードバックにより、
再現性のあるスキル向上へと進化しました。

Before



「何となくうまくいった」という
感覚だよりの振り返り
改善点が不明確で、成長実感が得にくい

After



改善点と成功パターンの言語化が可能に
次の面談に向けた明確なアクションプランが立つ
客観的データによる成長実感の向上

NotebookLM

育成文化の醸成：データに基づく的確なコーチングの実現

マネージャーは同席せずとも個と組織の課題を把握でき、漠然とした問いかけではなく、具体的で効果的な指導が可能になりました。

個へのアプローチ



- フィードバック内容を基にした、具体的な1on1の実施。「先週のAさんとの面談で…」と会話を始められる。
- 新人CAの早期立ち上がりと、自己流スタイルの早期軌道修正。

組織へのアプローチ



- チーム全体のフィードバック傾向を分析し、共通の課題を特定。
- 特定した課題を基に、効果的な集合研修を企画・実施。

NotebookLM

現場が語る、日々の業務の変化

導入によるポジティブな変化は、キャリアアドバイザーとマネージャー双方から実感されています。

キャリアアドバイザーの声

[CA Avatar Avatar Placeholder]

「振り返りが習慣化し、自分では気づけない観点を指摘してもらえる。最初は『AIに評価される』という抵抗感もありましたが、今では自分の成長に欠かせないツールです。」

マネージャーの声

[Manager Avatar Placeholder]

「具体的なアドバイスで育成がしやすくなった。特に新人CAの立ち上がりが早くなった実感があります。早い段階で軌道修正ができるのが大きい。」

NotebookLM

AI活用プロジェクトを成功に導く3つの原則

高度な技術論ではなく、「徹底的に使う側に立つこと」「事業課題に根差すこと」「小さく始めること」が成功の鍵です。



1 原則1：設計思想 (Design Philosophy)

「使われないリスク」を技術導入の前に、設計段階で完全に排除する。



2 原則2：課題起点 (Problem-Driven)

ビジネス成果に直結する評価観点を経営と連携して設計する。「何のためのAIか」を問い続ける。



3 原則3：導入手法 (Agile Implementation)

ノーコードツール活用で迅速に導入（本件では約1週間）。運用しながら改善を続ける。

NotebookLM

さらなる進化と展開に向けて

フィードバックの質的向上と、他領域への横展開を通じて、全社的な生産性向上に貢献していきます。



深化 (Deepen)

- 評価観点の継続的なPDCA（CAが見飽きないよう、常に新鮮なフィードバックを）
- より高性能なAIモデルの活用によるフィードバック品質の向上



横展開 (Expand)

- 対法人（企業）面談への応用
- 他事業部（他の対人サービス）への展開

NotebookLM

データドリブンな人材育成基盤の、次なる一歩へ

AI活用の鍵は、完璧なシステムを待つことではない。

「まず小さく始めて、運用しながら改善する」

このアプローチこそが、確実な成果を生み出す。

[Company Logo Placeholder]

NotebookLM